

市民活動状況

市内NPO法人数	31 団体
当センター登録団体数	142 団体
当センター登録会員数	6,787人
5月来館者数	2,131人
5月印刷機利用枚数	27,727枚

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 田沼信之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。
 会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や
 大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。
 開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。
 休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日
 〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
 E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL http://r-shimin.sakura.ne.jp/

今月のトップニュース

センター長の「目指せ！市民活動日本一」その78

筑波技術大学訪問

視覚・聴覚障害者を支援する先端技術を学習する唯一の国立大学「筑波技術大学」。
 この大学訪問が、市民活動日本一を目指す円卓会議メンバー藤澤名誉教授のプロデュース
 で実現した。



長島副学長と国際的にご活躍の安田名誉教授・・・龍ヶ崎からは元市議会議員の深澤先生と社会福祉協議会の皆さんと一緒の訪問でした。

天久保キャンパス(聴覚者支援)と春日キャンパス(視覚障害者支援)の見学。
 図書館、学生寮も見学した。もちろん全国から入学している。
 学生食堂では長島副学長との経営上のお話もいただいた。
 オリンピック・パラリンピックブームもあり障害者の受け入れ活動はさらに社会的な重要課題になってきた。

今回の交流で、龍ヶ崎市市民活動センターと筑波技術大学の距離がぐ～んと接近した。

帰路では深澤先生と龍ヶ崎市市民活動の実際について、センターの立場と議員の立場を超えて意見交換ができりと、充実した一日を過ごした。

来年度2月開催予定のりゅうがさき市民活動フェアには専用ブースを用意し、最先端技術を紹介していただきたいと考えている。

「市民活動日本一」を目指す円卓会議

今回から新たに加わった筑波技術大学藤澤名誉教授と事務局のセンタースタッフ島村元松戸市役所課長を交えての議題は

- ①筑波技術大学訪問
- ②「市民活動センター敷地内体育館、プール施設の撤去、浄化槽層の更新に伴う工事のお知らせ
- ③歩く歴史講座「女化、赤レンガ西洋館」
- ④龍ヶ崎市の価値ある建造物を保存する市民の会によるハウジングメーカー助成金活動スタート
- ⑤流通経済大学生による「市民活動についての政策提言レポート」創作
- ⑥竹林整備活動について新たな事業発生
- ⑥4千年年前のインカ帝国マチュピチュで免振技術発見の調査報告

いよいよ円卓会議も、事業企画的内容に充実してきました。



防災研修会 お隣さん大丈夫ですか？

防災研修会に参加した。龍ヶ崎市防災士連絡会主催によるもので、地域コミュニティー協議会、自主防災組織、防災士の参加だった。

私の属する自治会の要支援対象者と登録者の数や、さらに65歳以上が住民の過半数をしめていることが具体的に解った。5年後の龍ヶ崎市は75歳以上の1人を3人の働ける者が支える時代となるとのこと。

松葉地区の減災活動の事例紹介の後、地区毎のワークショップが行われた。キーワードは「まずは(公的支援がとどくまでは)自身の備えで助け合い」。

参加者の関心事は一律に「災害発生時の安否確認／お隣さん大丈夫ですか?」。多くの者が活動や働きに出かけ、高齢者の多くが閑散と生活しているわがまち。

オレオレ詐欺がもたらした「よけいな電話には出ない」ことによる通信障害。個人情報保護法がもたらした高齢者情報の私物化。これからの減災活動のポイントは「ご近所どうしの声の掛け合い」ができていくかどうかかなのかな・・と思った。



佐藤成志先生の健康セミナー「野草観察会」



毎年6月恒例の「野草観察会」。場所は「牛久自然観察の森」で、木立の中の観察は涼しくて快適でした。

観察したのは、「野草ノート」から約20種。先生持参の教材野草は12種。

薬草は様々な処方により効能が発揮されるとの説明で、静寂な森の中、ウグイスの鳴き声を聞きながらの観察会でした。

この時期に花を咲かせる有名な薬草は「ドクダミ」で別名「重薬」「十薬」ともいわれ、薬効は排毒、利尿、便秘。

「漢方薬」はこれら複数の薬草(生薬)を組み合わせでつくられるそうです。



今年もスタートしました！「まいりゅう科学工作教室2019」

「まいりゅう科学工作教室」は、現役を離れた先生たちによる科学教育で、10回講座。

毎年子供たちに大人気！の工作教室です。今回は先生団もさらに充実し、「生活に必要なものを一緒に考えながら科学工作しませんか?」がテーマだそうです。

教室は、ご存知 松本いずみ先生の「こどもゆめ基金」補助事業です。



お知らせ

★恒例の「市民活動応援市」を11月16日(土)開催予定です。詳細は随時お知らせします。

龍ヶ崎短歌会

元号の令和ときまりしその朝孫は踏み出す初出仕と
帰省せる中一の孫と抱きあう「大好きだよ」といえば「僕も」と

岡田さち子
小嶋知葉